

自律学習を促進し、日本文化への興味を深めるプロジェクト

モック ピセイ/チューブ ナディ
カンボジア日本人材開発センター

1. はじめに

カンボジア日本人材開発センター（以下、CJCC）では2012年9月から『まるごと日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）を使用したコースを開講し、2014年10月より正式にJF講座として位置づけられている。

『まるごと』は、JF日本語教育スタンダードに準拠し、日本語を使ってコミュニケーションをすることと、異文化を理解し、尊重することを重視してデザインされている。しかし、カンボジアでは日本語クラス以外で日本文化を体験する機会が少ないため、授業で日本文化や日本事情を説明する時に学生が想像できず、授業がうまく進まないという問題がある。また、CJCCで日本フェスティバルや日本文化体験講座があっても、自分から積極的に参加しないという問題もある。それを補うために、受講生が教室外で自律学習を進め、日本語・日本文化への興味を深めることができるような活動を企画し、実施することにした。

2. コースの基本情報

プロジェクトを実施したのは、通常コースとオーダーメイドコースである。両コースの概要は以下の通りである。

<通常コース概要>

実施コース名	日本語会話 まるごと3コース
レベル	A2
実施日時	2014年10月～2015年3月
授業時間	90分@1コマ、週3回×21週=63回（計94.5時間）
授業担当講師	カンボジア教師2人、日本人教師2人
受講生数	48人（3クラス合計/『まるごと入門 A1』からの継続受講生26人）
受講生の属性	性別：男性20人/女性28人 年齢：10代20人/20代26人/30代2人 職業：中学生2人/高校生1人/大学生34人/会社員10人/主婦1人
使用教材	『まるごと初級2 A2』 「りかい」 / 「かつどう」

<オーダーメイドコース概要>

オーダーメイドコースはカンボジアの大手銀行（ACLEDA）の銀行員を対象としたコースである。

コミュニケーション能力を優先して身につけたいという要望により「かつどう」のみを使用している。

実施コース名	ACLEDA コース (第4学期)	ACLEDA コース (第5学期)
レベル	A2	
実施日時	2014年9月1日～12月30日	2015年1月26日～6月2日
授業時間	60分@1コマ、週3回×16週=47回 (計47時間)	60分@1コマ、週3回×15週=45回 (計45時間)
授業担当講師	カンボジア教師2人、日本人教師1人	
受講生数	26人 (1クラス18人/2クラス8人)	24人 (1クラス14人/2クラス10人)
受講生の属性	性別：男性5人/女性21人 年齢：20代20人/30代6人 職業：銀行員	性別：男性5人/女性21人 年齢：20代20人/30代4人 職業：銀行員
使用教材	『まるごと初級1 A2』 「かつどう」1課～10課	『まるごと初級1 A2』 「かつどう」11課～18課

3. 実践内容

3.1. 通常コースの場合

通常コースでは3つの活動を実施した。『まるごと初級2 A2』の各トピックに関連した、1)教師が指定した課題に取り組む活動、2)グループディスカッション、3)グループプレゼンテーションの3つである。

3.1.1 コースでの各活動の位置づけ

通常コースは、『まるごと初級2 A2』「かつどう」「りかひ」の1課を3回で終わる。各活動をコースの流れに当てはめると図1のようになる。

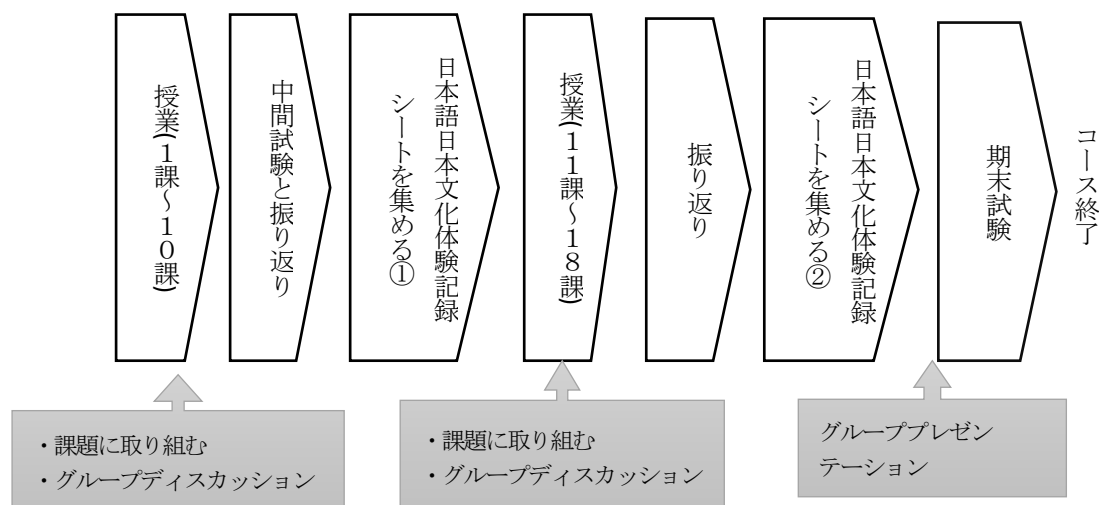


図1：通常コースの流れと活動の位置付け

3.1.2 活動の内容

1) 各トピックの課題に取り組む


トピック 1～8 の各トピック終了後に課題を出した。トピックの内容を見て、各トピックに関係し、カンボジア人ができそうな場面を工夫した1～4つの課題を出した。表1は各トピックの課題である。課題が複数あるときは、受講生がやってみたい課題を1つ選んだ。やったことは、日本語・日本文化体験記録シートに書いてもらったり、A4用紙に写真付きで書いてもらったり、CJCCの日本語受講生を対象としたグループ Facebook（以下、FB）に投稿してもらったりした。このコースでは、課題に取り組んだ結果は、学習評価の項目の一つになっている。【資料1】は、提出された課題の一部である。

表1：各トピックの課題

トピック 1 「新しい友だち」	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己紹介を書く。(FB) ② 日本人の友達の Facebook などの情報(趣味、好きなこと...)を見てコメントを書いて、報告する。(体験記録シート) ③ 日本人の名前の意味について調べる。(A4用紙) ④ 「むらかみ はるき」という小説家について調べる。(A4用紙)
トピック 2 「店で食べる」	<ul style="list-style-type: none"> ① 食べたことがあるプノンペンの日本料理のレストランを紹介する。そのレストランや料理の写真もつけて書く。(A4用紙) ② インターネットで日本の料理の食べ方と料理の中に何が入っているかを調べる。(A4用紙) ③ インターネットで他の国の食事のマナーについて調べて報告する。(A4用紙)
トピック 3 「沖縄旅行」	<ul style="list-style-type: none"> ① カンボジアの観光地を調べて紹介する。その場所について、3つ以上のお勧めのポイントとアドバイスなどを写真もつけて書く。例：そこで何ができるか。何を持って行ったらいいか。(FB) ② 世界で旅行に行きたいところを調べて報告する。その観光地について、3つ以上のポイント、写真もつけて書く。例：そこで何ができるか。いつがいいか。(FB)
トピック 4 「日本祭」	<ul style="list-style-type: none"> ① カンボジアで行われる日本のイベントを紹介する。参加したことがある人はどんなことが体験できるか、感想も書く。参加したことがない人は詳しい情報を調べる。(A4用紙) ② イベントのボランティア募集のちらし(日時/会場/参加費)を作る(理解P76)。(A4用紙)
トピック 5 「特別な日」	日本の特別な日に関して、自分の経験や調べる。(体験記録シート)
トピック 6 「ネットショッピング」	自分が持っている電気製品や買いたい電気製品の特徴を書く。(A4用紙)
トピック 7 「歴史と文化の町」	カンボジアの有名なもの(文化財)や遺跡を紹介する。(A4用紙)
トピック 8 「せいかつとエコ」	環境に良くないことを見つけて、どうすれば良くなるか、意見を書く。(A4用紙)

【資料1】

＜「日本語・日本文化体験記録シート」の例＞



なまえ: サムアート

まるごと 3 A-2①

にほんご & ぶんか たいげん きろくシート

Make a record of what you did (saw, heard, read, etc) and realized about Japan!

My Motivation :

1. 新しい友だち
私の新しい友だちはキムさんです。キムさんとよく休みの日に本屋へ行きます。親友やどろしを見るのは楽しいです。キムさんよく本を言読おことが好きです。キムさんやどろし、あがるい人です。私はキムさんが好きです。

2. 店で食べる
私は日本料理屋を食べたことがあります。店有名なのはYoshimoya です。Yoshimoya は Aeon があります。よしみやかやせやきとか洋食がおすすめ。Yoshimoya 米斗王里はとても美味しいと思います。

3. ^{オセチ}沖繩旅行
私は沖繩県に行ってみたんです。沖繩県は海の山がとっても楽しいです。沖繩県がイビツワをしてみたいんです。

4. 日本まつり
こしは、とまなち KIZUNA Festival に参加しました。cyco kizuna Festival は何か 浴衣コンテストとか柴田三兄妹ロケ隊コンテストがあります。とても楽しいです。

5. とくべつな日
私のとくべつな日は 家方祭という日は タイへ行きました。キムは 長い 休みは かくり 好きなきことができて、うれしいです。アタシがりに 米斗王 と 叔父や 祖母に 念之、よかったです。

どのけいげんが一番おもしろかったですか。
What is the most interesting experience for you?
つぎは何をしたいと思いますか。

キムは 来ることを べんきょうしたあとで、何が にほんのらぶんかたを わかりました。にほんを せいと べんきょうしてきて、私の にほんごも べんきょうしました。

<Facebook の例：トピック 3 「沖縄旅行」 >

O Learners **Bormey Sangvat**
December 12, 2014 · Pochentong

まるごと3B2
名前: サンヴァット ボルメイ
≪ 世界で旅行に行きたいところ ≫



私の行きたいところは「ギリシャ」です。この国は多くの場所をおとずれることができます。ゆいめいな古代建物とすばらしいアキテクチャとれぎしがたくさんありますから。

たとえば、「パルノン」とか「メテオラ」とか「Myrtos かいがん」とか、せんぶ、ゆいめいなかんこうちです。

「パルノン」しんでんは、アテナイのアクロポリスにかつてのじいんです。そして、「アテナ女神」にささげるのよいうところですよ。ここで、みんな、写真がとまらますよ。ギリシャの文化もしられます。

「メテオラ」は「Middle of the sky」といういみです。Rousanou のせいなるしゅうどういんです。いきおのむようなれぎしが見られますが、楽しめます。

ラストは「Myrtos かいがん」です。あそこは本当にきれいです。青海だし、しんせんなしおかぜだし、いい空気だし、おいしいシフドだし、いちばんリラックスところですよ。



<写真付きレポートの例：トピック 4 「日本祭」 >



私は2014年10月19日に盆踊り大会に参加しました。
盆踊りの会場にはたくさんお客さんがいました。母と友達もそこにいました。
盆踊りの前に私は10週間毎週土曜日に日本の踊りとクメールの踊りを練習しました。
25人の女の人と25人の男の人を選びました。私は25人の女のひとりです。
盆踊りの練習は大変だったけど、踊りのテストに合格しました。
盆踊りで私たちは浴衣を着ました。皆は私たちはステキだったと言っていました。
私たちは盆踊りの会場でお客さんに踊り方を教えました。
お客さんは綺麗な服をきて楽しそうに盆踊りを踊りました。
盆踊りの時間は4時半に始めて、8時に終わりました。
私たちはステージで恋するフォーチュンクッキーをパフォーマンスしました。
盆踊りで子供たちのよさこいのパフォーマンスがありました。すごかったです。

2) グループ ディスカッション

各トピックを終了後、次のトピックの授業の3回目や4回目のとき、3~4人ぐらいのグループに分けて、自分が取り組んだ課題について、20分ぐらい日本語で報告し合った後、各グループの代表に、自分のグループメンバーの情報をまとめてしてもらい、全体でシェアした。

ただし、グループディスカッションは、1日の授業内容が多すぎたこと、課題の提出に遅れが見られたことなどからなかなかできなかった。そのため、実施できたのは2回で、トピック6「ネット ショッピング」とトピック7「歴史と文化の町」の課題についてである。

3) 各トピックのグループプレゼンテーション

グループプレゼンテーションの1か月前に、4~5人ぐらいのグループを作り、『まるごと初級2 A2』のトピック9を除く8つのトピックの中から1つを選び、そのトピックに関連した興味がある内容について調べてもらった。調べた情報を15分程度にまとめて発表する。発表準備は授業外でさせた。発表は期末試験の一環で、評価の一項目となっている。受講生が選んだトピックはトピック2(店で食べる)、トピック3(沖縄旅行)、トピック4(日本祭)、トピック7(歴史と文化の町)である。パワーポイント(資料2)を使ったグループと紙媒体を使ったグループがあった。

【資料2】「カンボジアの日本の盆踊り大会」のプレゼンテーション資料(一部)



3.2. オーダーメイドコースの場合

オーダーメイドコースでは、プロジェクトワークを実施した。このコースは、1回の授業は1時間しかなく、受講生は全員同じ銀行の行員である。受講生は、仕事が忙しく、CJCCなどの日本語教育機関で行われる日本の行事に参加することは難しい。しかし、将来仕事で日本人のお客さんに会う可能性があり、受講生は日本文化に関する一般的知識が必要だと考えている。そこで、授業時間外に一人でできる活動を考えた。

3.2.1 コースでのプロジェクトワークの位置づけ

このコースは受講希望者のコミュニケーション能力を高めたいという希望に合わせ「かつどう」だけを使用している。4学期（『まるごと初級1 A2』の前半学期）は1課～10課、1課は4～5回で、5学期（『まるごと初級1 A2』の後半学期）は11課～18課、1課は5～6回で授業を行った。各学期ともコースの最初の日にはオリエンテーションを行い、JF 日本語教育スタンダードと『まるごと』の理念、コース概要に加えて、プロジェクトワークについて何をどのようにするか説明している。プロジェクトワークをコースの流れに当てはめると図2のようになる。

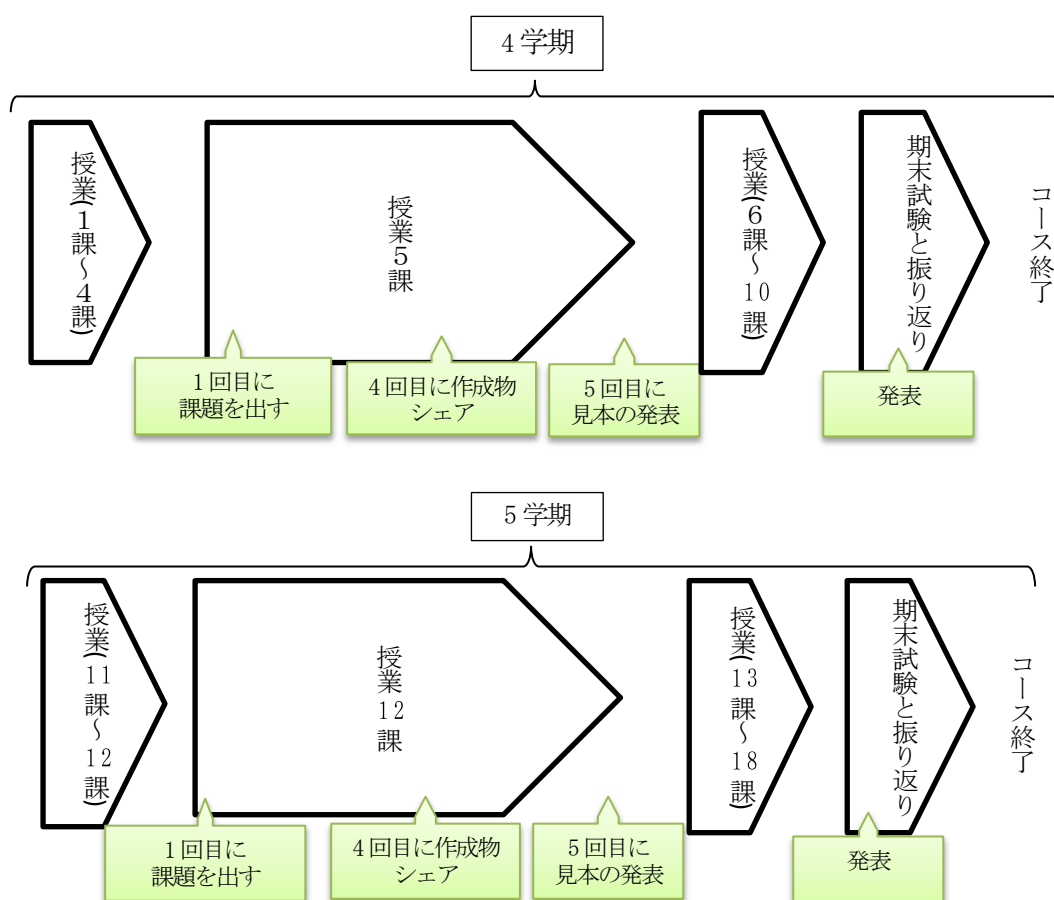


図2：オーダーメイドコースの流れとプロジェクトワークの位置付け

3.2.2 プロジェクトワークの内容

4学期は「日本のお正月」、5学期は「ひな祭り」と「お花見」をテーマにプロジェクトワークを行った。この3つのテーマは、CJCCなどの日本語教育機関で行われる行事に参加できないために学ばずにいることを学ぶためである。表2にプロジェクトワークの流れを4学期、5学期にわけてまとめた。

表2：4学期と5学期のプロジェクトワークの流れ

4 学期	
トピック 1 「日本のお正月」	<ul style="list-style-type: none"> ①英語と日本語のWEB サイトで「日本のお正月」について情報を調べる。 ②自分の興味がある部分を Google などの翻訳ソフトを使って日本語で報告をまとめる。 ③メールで提出する。 ④教師が間違いをチェックし、返した後、修正し再提出する。 ⑤第5課の4回目の授業で受講生同士が作成物（日本語でまとめた報告／②からできたもの）をお互いにシェア・意味確認。 ⑥第5課の5回目の授業で見本となる受講生に発表してもらう。 ⑦一人ずつ調べたことを発表（約2分）する。
5 学期	
トピック 2 「ひな祭り」	<ul style="list-style-type: none"> ①配布した語彙リストを参考に、インターネットで情報を調べ、日本語で情報をまとめる。 ②メールで提出する。 ③教師が間違いをチェックし、返した後、修正し再提出する。
トピック 3 「お花見」	<ul style="list-style-type: none"> ④2課ごとに課の4回目の授業で、自分が調べた「ひな祭り」と「お花見」を受講生同士でシェアし、友達の作ったものを読んだり、意味を確認したりする。 ⑤興味がある方のトピックを選んで一人ずつ発表（約2分）する。

テーマごとに調べてまとめたものはメールで提出させ、メールでコメントを返し、修正させた。メールのやりとりは日本語または英語で行った。メールでやり取りする目的は受講生がパソコンで日本語に変換できるようになること、自分のできる範囲で日本語で教師とメールを交換できるようになることである。多くの受講生は英語でやりとりしたが、3～4人は日本語で行った。教師とのやりとりは、数回に及ぶ受講生も多かった。なお、2人は手書きで作成し提出した。

授業の中では4回受講生同士で報告をシェアした。お互いのレポートを読んだり、意味を確認したりした。そして、多くの受講生がほかの受講生のレポートの語彙があまり分からないという問題を解決できるようにした。

日本語でのプレゼンテーションの仕方については教師が説明をしている。また、あまりできない受講生の参考になるように、教師がよくできていると判断した受講生にモデルとして発表してもらうこともした。お互いに助け合って、期末試験の発表がみんなスムーズにできるようにシェアの時間を設けた。

4. 実践の結果

「受講生が教室外で自律学習を進め、日本語・日本文化への興味を深めることができる」ようになることがどの程度達成できたかを、課題の提出、アンケート調査、教師への聞き取り結果で見してみる。

4.1. 通常コースの場合

4.1.1 課題の提出

3クラスの学生48人のうち課題を8トピック提出した人は18人(37.5%)、7トピック6人(12.5%)、6トピック4人(8.3%)、5トピック8人(16.6%)、4トピック以下は12人(25%)であった。提出率を見ると、努力し、頑張っている受講生がかなり多いことがわかった。しかし、途中でやめた学生もいたし、仕事や勉強が忙しい学生もいたし、それで、4トピック以下しか提出しなかった人も多かったと考えられる。

4.1.2 アンケート調査

コース終了後、受講生が各トピックの課題と活動についてどんな感想や意見を持っているか、母語でアンケートを行った。48人中24人から回答を得た。アンケート結果は、資料3の通りである。

【資料3】通常コース終了時アンケート結果

(1) あなたの勉強にとって各トピックの課題について書くのはどうだったか。

	人数	理由
とても役に立つ	15	・日本語で書く力が高められる。 ・勉強した文法と言葉が復習できる。 ・日本の文化・新しい日本語の言葉と文型が分かる。 ・日常生活で日本語を使うことが促される。 ・教室の中の勉強以外、サイトで勉強できる。
良い	7	
まあまあ	1	・仕事がある人にとって、書く時間が足りない。 ・カンボジアの場面に合わないトピックを調べるのは難しい。
あまり良くない	1	

(2) トピック1～8でどの課題がおもしろかったか。

トピック	人数	理由
3「沖縄旅行」	10	・観光地トピックなので面白くて調べやすい。 ・日本人に日本語で自分の観光地を伝えられて、嬉しい。 ・自分が好きなところを調べられるから。
8「生活と文化」	4	
2「店で食べる」 4「日本祭」 5「特別な日」	2	
1「日本のお正月」	1	

どの課題がおもしろくなかったか。

トピック	人数	理由
6「ネットショッピング」	6	・ネットショッピングをしたことがない。 ・カンボジアではネットショッピングがあまり人気がない。
1「新しい友だち」	5	・おもしろくない。 ・日本の友だちがいなくて調べるのは大変だ。
4「日本祭」	4	・例の通りに書くと、別の文法が使えないから。 ・日本の祭りに参加したことがなくて、あまり知りません。
8「生活と文化」 3「沖縄旅行」 7「歴史と文化の町」	1	

(3) レポートを書いてから、何ができるようになったか。／何が上手になったか。

<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や新しい言葉が分かる。 ・日本語で自分の国のことが簡単に書ける。 ・パソコンで日本語が入力できる。 ・勉強した文法や言葉が使える。 ・授業のトピックがよくわかる。 ・日本語を書く能力が高まる。

(4) 大変なことがあったか。

<ul style="list-style-type: none"> ・知らない日本の文化を調べないといけない。 ・文法と語彙があまりわからないから大変だ。 ・時間がちょっと厳しい。 ・日本語の言葉がたくさんあるから、自由に使い方がわからない。 ・自分の周りに合わない場面があった。
--

(5) グループディスカッションとプレゼンテーションについてどう思うか。

	人数	理由
とても役に立つ	13	・たくさんの人の前で自信を持って話せる。
良い	10	・インターネットでいろいろな情報が調べられる。 ・友だちと仲良くなれる、知識がシェアできる。 ・日本語でのプレゼンテーションの方法がわかる。 ・友達や先生の前で自分の日本語能力を見せるチャンスがある。 ・グループの仕事やグループの協力が理解できる。
まあまあ	1	・忙しい人とグループになるとき、大変だった。
あまり良くない	1	

4.1.3 教師の振り返り

コース終了後、担当教師4名に聞き取り調査を行い、コメントと改善点を聞いた。聞き取り調査の結果は資料4の通りである。

【資料4】担当教師聞き取り結果

	コメント	改善案
日本語・日本文化体験記録シート	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が体験についてちゃんと意識していなかった。それで、学生が体験しても書かなかった。 ・学生の多くはカンボジアにある日本の イベントに参加する経験があまりなかった。 ・学生が日本語・日本文化体験記録シートの意味を理解しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生が何度も説明する必要がある。例：見本を見せる ・体験ができるイベントの前後に学生に伝える。
各トピックで提出した課題	<ul style="list-style-type: none"> ・量が少なくても勉強した文法を頑張って書いた。 ・自分の勉強のためよりも宿題に出されたから仕方なくやっていた人もいた。 ・フィードバックがちゃんとできなかった。(フィードバックの時間が取れなかったから) ・提出期限を守らず、後からばらばらに提出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・締切を厳しくする。 ・トピックの最初からグループディスカッションを取り入れ、習慣にする ・フィードバックの時間をとる。
グループディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・できる人はできない人に見本を見せてシェアできる。 ・一生懸命他の人の発表を聞いたり自分の発表をするのが楽しそう。 - 学生がディスカッションの目的が分からなくて、結果があまり出なかった。 ・各トピックの課題を提出していない人がいると、グループディスカッションがすすみにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの概要とメンバーを前の授業で知らせる。 ・ディスカッションの時間をしっかりとる。
グループプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で準備をやらなかったが、本番だけでもよくできた。 ・グループの協力は良かった。 ・日本語のスライドをよく準備した。 ・発表のトピックに関してよく調べた。 	なし

4.2 オーダーメイドコースの場合

4.2.1 課題の提出率 (4 学期と 5 学期)

4 学期のトピックは「日本のお正月」である。受講生 26 人全員 (100%) が提出、出張で参加できなくなった 2 人を除く 24 人 (92%) が発表した。受講生は日本の文化に非常に興味があって、まじめに取り組んでいると言える。5 学期は 2 つトピックがあり、トピック 1 は「ひな祭り」、トピック 2 は「お花見」である。受講生 24 人のうち提出した人は 23 人 (95.8%)、出張で参加できなくなった 3 人を除く 20 人 (87%) が発表した。この提出率を見ると、5 学期も 4 学期に引き続き、努力し、頑張っている受講生が多かったことが分かった。

4.2.2 アンケート調査

コース終了後、受講生がプロジェクトワークについてどんな感想や意見を持っているか、母語でアンケートを行った。24 人の中 22 人がアンケートに回答した。アンケート結果は資料 5 の通り

である。

【資料5】 オーダーメイドコース終了時アンケート結果

(1) プロジェクトワークはどうだったか。

	人数	理由
とても役に立つ	10	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい言葉が勉強できる。 ・日本語と日本事情が分かるようになる。 ・日本語で記録する力が高められる。 ・日本語や日本情報についてもっと調べたくなった。
良い	7	
まあまあ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がなかった。
あまり良くない	2	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり語彙の意味が分からなかった。 ・時々間違った言葉を使った。

(2) 「日本のお正月」と「ひな祭り」と「お花見」についてプロジェクトワークをしてから何が伸びたと思うか。

	人数	理由
日本に関する知識	14	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのトピックの内容が良く分かるようになった。
パソコンの日本語入力	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナで入力できるようになった。
読む力	7	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み方が覚えられる。
話す力と書く力	12	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語で話す自信がついた。

(3) 3つのトピックの中でどれが一番興味を持ちましたか。一つだけ選んでください。

	人数	理由
「日本のお正月」	3	<ul style="list-style-type: none"> ・おせち料理を食べたくなった。
「ひな祭り」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひな祭り」のトピックがとても興味があった。課題を作るときに日本語と日本文化がよく分かるようになるのでいいと思う。 ・「ひな祭り」の祭りはカンボジアの「チョマルップ祭り」と似ている。
「お花見」	12	<ul style="list-style-type: none"> ・「お花見」に興味をもった。このトピックについて書いたとき気持ちがよくなった。 ・「お花見」の内容や言葉が分かりやすかった。 ・「お花見」の歴史を知った、桜の美しさが見られるし、それに日本人の集まりの会の状況が分かるようになった。 ・「お花見」で日本人の一つの生活と習慣を知ることができた。 ・「お花見」の春の季節がきれいで、家族、会社、友達が集まった時の雰囲気が楽しそうに見えてお花見をしたくなった。

(4) プロジェクトワークのやり方についてどう思うか

4-1) 先生がトピックに関連した語彙リストを配る

	人数	理由
とても役に立つ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・自習できるし、新しい言葉がたくさん勉強できた。 ・たくさん新しい言葉を覚えるようになった。 ・授業だけの勉強ではなく、加えて言葉が勉強できた。 ・これは学生にとって一つの良いガイド。 ・これからの日記を書く習慣になると思う。
良い	11	
まあまあ	1	
あまり良くない	0	

4-2) 英語のサイトで情報を調べる

	人数	理由
とても役に立つ	0	<ul style="list-style-type: none"> ・英語は世界の人によって使われているから、英語で情報を調べるのはやさしかった。 ・日本語の言葉の意味が分からなかったときに、調べることができた。
良い	13	
まあまあ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・時々間違いがあった。 ・漢字があまり読めなかったし、使いたい言葉があまり分からなかったので、少し難しかった。
あまり良くない	1	

4-3) 日本語のサイトで情報を調べる

	人数	理由
とても役に立つ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の使い方が分かるようになった。 ・漢字の勉強ができるようになった。 ・日本語の言葉がたくさんわかるようになった。
良い	12	
まあまあ	0	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は先に日本に関連したトピックのクメール語版を学生に配布したほうが良いと思う。 ・日本についての知識が増やせたが、漢字があまり分からなかった。
あまり良くない	1	

(5) 受講生同士での情報や作ったものをシェアすることについてどう思うか。

	人数	理由
とても役に立つ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士で意見がシェアができて、とても良かった。 ・お互いの経験や知識をシェアすることができた。 ・友達と新しい言葉がシェアできた。 ・これからもプロジェクトワークを続けていたら、もっとよくなる。 ・もっと日本語を勉強したくなった。
良い	12	
まあまあ	0	
あまり良くない	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい言葉(まだ習っていない)が多くて、やりにくかった。 ・語彙数がまだ少なく、友達の作品の内容があまり理解できなかった。

(6) プロジェクトワークをした経験から感じたこと・気づいたこと、または次のプロジェクトワークに向けて、改善したほうが良いことなど。

- ・3つの課題に取り組んだので日本に行けなくても、少しでも日本のことが分かるようになったので、プロジェクトワークを行ったのはいい勉強だと思う。
- ・次のプロジェクトワークを行うとき先に関係がある言葉と文法を教えてください。
- ・トピックは先生が決めないで、学生が自分でトピックを決める。
- ・プロジェクトワークを行うのはいいと思うが、言葉や文法があまり分からないので、文章を書くときとても難しかった。一つ一つの文章を書くときにGoogle 翻訳ソフトを英語から日本語にするときに、時々間違いがあったため、困った。
- ・プロジェクトワークを行うのはとてもいいと思う、学生が授業以外に自分で勉強や情報を調べられるようになった。
- ・次のプロジェクトワークは先生がトピックを決め、学生は自分で勉強した文法や文章を使って書く、またGoogle 翻訳ソフトを使わない方が良い。

4.2.3 教師の振り返り

コース終了後、担当教師1名に聞き取り調査を行った。報告者の振り返りも含めた聞き取り調査の結果は資料6の通りである。

【資料6】担当教師聞き取り結果

	コメント	改善案
各トピックで提出した作成物	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品内容について、あまり分からないまま提出した。 ・Google 翻訳ソフトを使い、英語から日本語にそのまま訳し、まとめて書きあげたのはあまり良くなかった。そのため、担当教師が間違っして訳した文章を直すのが大変だった。 ・自分の勉強のためよりも、宿題を出すよう言われたから仕方なくやっていた人もいた。 ・日本の祭りや日本情報を日本語のサイトで調べるのが今の受講生レベルには合わなかった。 ・授業時間にトピックに関連する語彙の練習があまりできなかったため、意味の確認もきちんとできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生のレベルに合わせて、日本語のサイトで調べられるトピックを決める。 ・Google 翻訳ソフトを使わないで、勉強した文法を使って情報をまとめる。 ・関連するトピックの練習時間や内容の確認時間を増やす。
メールでの課題提出のやり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生がメールで宿題を提出する習慣がなかった。 ・数回再提出した受講生が多かった。 ・課題を提出していない人も一人いた。 ・担当教師がメールでの宿題チェックに時間がかかった。 ・フィードバックの時間があまり取れなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は日本語でメールの提出方法を説明する必要がある。 ・翻訳ソフトを使わないで、勉強した文法を使う。 ・フィードバックの時間をもうちょっととれるように工夫する。

<p>受講生同士での情報・作成物シェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語でプレゼンテーションをする方法が少しでも理解できた。 ・受講生代表の発表を参考にし、受講生自身が期末試験の際、自分のものを前より良く発表できるようになった。 ・受講生は時々お互いのトピック内容があまり理解できなかった。また、自分の内容しか理解しなかったと言った受講生もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のトピックに関して、よく調べてもらう。 ・受講生同士の作成物を発表する前に、グループメールでシェアする必要がある。 ・受講生代表に発表してもらう前に、他の受講生はそのものを読んでおく必要がある。 ・受講生代表だけでなく、全員に発表練習をしてももらう。
-------------------------	---	---

5. 実践の成果

5.1 通常コースの場合

この実践を行う前は、日本の祭りがあっても、受講生があまり参加しておらず、クラス内で、先生の教える日本の生活や文化をそのまま理解するだけであった。しかし、実践とその振り返りを通して、学生が教科書の中に書いてある日本の生活と文化の内容をそのまま知識として理解するだけでなく、自分で調べたことにより、より深く理解し、興味を持ったことがわかる。そして、資料1と資料2の受講生が作成したのを見ると、受講生の興味や見方が変わり始めただけでなく、回を重ねることに、少しずつ詳しく書けるようになったこともわかる。実際、日本のことをインターネットで調べるだけじゃなくて、カンボジアで開催される日本関連のイベントを体験するようになったようである。また、資料3からは、「日常生活で日本語を使うことが促される」など日本語を使うようになったことや、「日本文化・新しい日本語の言葉と文型が分かる」「勉強した文法と言葉が復習できる」など、日本語の言葉や文章など課題に取り組む過程で学んでいることがわかる。一方、資料4にあるように、自分の勉強のためよりも、宿題に出されたから仕方なくやっていたような人もいたという教師のコメントもあった。

さらに目的としてはいなかったが、グループディスカッションやグループプレゼンテーションをすることで、クラスメイトの考え方や性格などがわかり、お互いに仲良くなれ、知識や経験もシェアでき、グループで協力し合う力を身につけられた。そして、日本語でプレゼンテーションをする方法も理解できるようになったことがわかった。

5.2 オーダーメイドコースの場合

資料5から受講生が日本の祭りや日本に関する情報など自分で英語も日本語も利用しながらインターネットで調べ、理解できるようになったことがわかる。また、受講生の作成物を見ると、日本語で少しずつ詳しく書けるようになっている。4学期では自分が調べたことについて発表することに

まだ慣れていない受講生も5学期には4学期と比べ発表能力が向上している。これは、受講生同士のクメール語による情報シェア、日本語のモデル発表を通して、クラスメイトと知識や経験をシェアできるようになったことが背景にあると思われる。他の受講生のアイデアや作成物を参考にしている様子も見られた。

6. 今後の課題

最後に、実践とその後のアンケート、教師のコメントからわかった課題を整理する。

通常コースでは、

- ・カンボジアの場面に合わないテーマを調べるのは難しい。例えばネットショッピングなどがある。
- ・時間配分を考える。ディスカッションの時間が十分なくてグループディスカッションが進めにくかったり、課題の提出期限が守られず、ばらばらと提出されたり、フィードバックの時間やプレゼンテーションの練習時間が授業内で十分じゃないため間違っただまま発表してしまうことがあった。

オーダーメイドコースでは、

- ・もっと学習効果を高めるために、受講生のレベルに合ったテーマにする必要がある。今回決めたテーマで使う言葉（例えば、「ひな祭り」に使われる昔からの言葉や固有名詞）は『まるごと初級1 A2』が終わったばかりの受講生にとっては難しすぎた。
- ・自動翻訳ソフトを使わなくても理解できるようにする。Google 翻訳ソフトを使った受講生の作成物には間違いが多く、そのまま使わせるのは良くない。
- ・教師が1人で担当するには負担が大きい。作成物のチェック、スケジュールのコントロールなど、コース担当教師全員で協力するとよい。また、カンボジア人の教師だと受講生が書いた文章が正しいかどうか判断できないことがあるので、日本人教師がいるといい。